

●花のつくり

★実施時期：4月上旬

★指導時間数：2時間

【学習指導要領】

(1)植物の発芽，成長，結実
植物の育ち方について，発芽，成長及び結実の様子に着目して，それらに関わる条件を制御しながら調べる活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。
ア 次のことを理解するとともに，観察，実験などに関する技能を身に付けること。
(ア)植物は，種子の中の養分を基にして発芽すること。
(イ)植物の発芽には，水，空気及び温度が関係していること。
(ウ)植物の成長には，日光や肥料などが関係していること。
(エ)花にはおしべやめしべなどがあり，花粉がめしべの先に付くとめしべのものが実になり，実の中に種子ができること。
イ 植物の育ち方について追究する中で，植物の発芽，成長及び結実とそれらに関わる条件についての予想や仮説を基に，解決の方法を発想し，表現すること。

【単元の目標】

・植物の花のつくりを調べる中で，予想や仮説を基に，解決の方法を発想し，表現することを通して，植物の花のつくりについて理解すること。
・問題解決の見通しをもって，植物の花のつくりについて追求し，予想や仮説を基に，解決の方法を発想し，表現しようとするとともに，植物の花のつくりについて理解したことを日常生活に生かそうとする態度や，生命を尊重しようとする態度を養う。

【具体的な評価規準例】

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
花のつくり	・花にはおしべやめしべなどがあり，花粉がめしべの先に付くとめしべのものが実になり，実の中に種子ができることを理解している。	・花のつくりを調べる活動を通して，予想や仮説を基に，解決の方法を発想し，表現するなどして問題解決している。	・問題解決の見通しをもって，植物の花のつくりについて追求し，予想や仮説を基に，解決の方法を発想し，表現するなどして問題解決しようとしている。 ・植物の花のつくりについて調べる活動を通して，生命を尊重しようとしている。

1. 植物の発芽と成長

★実施時期：4月上旬～5月下旬

★指導時間数：14時間

【学習指導要領】

(1)植物の発芽，成長，結実
植物の育ち方について，発芽，成長及び結実の様子に着目して，それらに関わる条件を制御しながら調べる活動を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。
ア 次のことを理解するとともに，観察，実験などに関する技能を身に付けること。
(ア)植物は，種子の中の養分を基にして発芽すること。
(イ)植物の発芽には，水，空気及び温度が関係していること。
(ウ)植物の成長には，日光や肥料などが関係していること。
(エ)花にはおしべやめしべなどがあり，花粉がめしべの先に付くとめしべのもとが実になり，実の中に種子ができること。
イ 植物の育ち方について追究する中で，植物の発芽，成長及び結実とそれらに関わる条件についての予想や仮説を基に，解決の方法を発想し，表現すること。

【単元の目標】

・植物の発芽，成長及び結実の様子に着目して，それらに関わる条件を制御しながら追求する中で，予想や仮説を基に，解決の方法を発想し，表現することを通して，植物の育ち方について理解すること。
・問題解決の見通しをもって，植物の発芽，成長及び結実の様子について追求し，予想や仮説を基に，解決の方法を発想し，表現しようとするとともに，植物の発芽，成長及び結実について理解したことを日常生活に生かそうとする態度や，生命を尊重しようとする態度を養う。

【具体的な評価規準例】

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
種子の中の養分	・植物は，種子の中の養分を基にして発芽することを理解している。 ・種子に含まれる養分について，発芽する前と後の様子を比較しながら調べることができる。	・種子に含まれる養分について，発芽する前と後の様子を比較しながら調べる活動を通して，予想や仮説を基に，解決の方法を発想し，表現するなどして問題解決している。	・問題解決の見通しをもって，植物の発芽，成長の様子について追求し，予想や仮説を基に，解決の方法を発想し，表現するなどして問題解決しようとしている。 ・植物の発芽，成長について理解したことを，日常生活などに生かそうとしている。 ・植物の発芽，成長の様子について調べる活動を通して，生命を尊重しようとしている。

発芽の条件	・植物の発芽には、水、空気及び温度が関係していることを理解している。 ・水や空気などの条件を制御しながら、種子が発芽するために必要な条件を調べることができる。	・水や空気などの条件を制御しながら、種子が発芽するために必要な条件を調べる活動を通して、予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現するなどして問題解決している。
成長の条件	・植物の成長には、日光や肥料などが関係していることを理解している。 ・日光や肥料などの条件を制御しながら、植物が成長するために必要な条件を調べることができる。	・日光や肥料などの条件を制御しながら、植物が成長するために必要な条件を調べる活動を通して、予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現するなどして問題解決している。

2. メダカのたんじょう

★実施時期：5月下旬～6月中旬

★指導時間数：8時間

【学習指導要領】

(2)動物の誕生

動物の発生や成長について、魚を育てたり人の発生についての資料を活用したりする中で、卵や胎児の様子に着目して、時間の経過と関係付けて調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する技能を身に付けること。

(ア) 魚には雌雄があり、生まれた卵は日がつたつにつれて中の様子が変化してかえること。

(イ) 人は、母体内で成長して生まれること。

イ 動物の発生や成長について追究する中で、動物の発生や成長の様子と経過についての予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現すること。

【単元の目標】

・卵の様子に着目して、魚の発生について追求する中で、予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現することを通して、動物の発生や成長について理解すること。

・問題解決の見通しをもって、動物の発生や成長について追求し、予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現しようとするとともに、生命を尊重しようとする態度を養う。

【具体的な評価規準例】

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
魚の誕生	・魚には雌雄があり、生まれた卵は日がつたつにつれて中の様子が変化してかえることを理解している。 ・魚を育て観察し、卵の中の変化を継続して観察することができる。	・魚を育て観察し、卵の中の変化を継続して観察する活動を通して、予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現するなどして問題解決している。	・問題解決の見通しをもって、動物の発生や成長について追求し、予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現するなどして問題解決しようとしている。 ・動物の誕生について調べる活動を通して、生命を尊重しようとしている。

3. ヒトのたんじょう

★実施時期：6月中旬～7月上旬

★指導時間数：7時間

【学習指導要領】

(2)動物の誕生

動物の発生や成長について、魚を育てたり人の発生についての資料を活用したりする中で、卵や胎児の様子に着目して、時間の経過と関係付けて調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する技能を身に付けること。

(ア)魚には雌雄があり、生まれた卵は日がつにつれて中の様子が変化してかえること。

(イ)人は、母体内で成長して生まれること。

イ 動物の発生や成長について追究する中で、動物の発生や成長の様子と経過についての予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現すること。

【単元の目標】

・胎児の様子に着目して、人の発生について追求する中で、予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現することを通して、動物の発生や成長について理解すること。

・問題解決の見通しをもって、動物の発生や成長について追求し、予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現しようとするとともに、生命を尊重しようとする態度を養う。

【具体的な評価規準例】

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
人の誕生	・人は、母体内で成長して生まれることを理解している。 ・胎児の成長の様子を、資料を活用して調べることができる。	・胎児の成長の様子を、資料を活用して調べる活動を通して、予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現するなどして問題解決している。	・問題解決の見通しをもって、動物の発生や成長について追求し、予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現するなどして問題解決しようとしている。 ・動物の誕生について調べる活動を通して、生命を尊重しようとしている。

●台風と気象情報

★実施時期：7月上旬～7月中旬

★指導時間数：4時間

【学習指導要領】

(4) 天気の変化

天気の変化の仕方について、雲の様子を観測したり、映像などの気象情報を活用したりする中で、雲の量や動きに着目して、それらと天気の変化とを関係付けて調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する技能を身に付けること。

(ア) 天気の変化は、雲の量や動きと関係があること。

(イ) 天気の変化は、映像などの気象情報を用いて予想できること。

イ 天気の変化の仕方について追究する中で、天気の変化の仕方と雲の量や動きとの関係についての予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現すること。

【単元の目標】

・台風の雲の動きに着目して、それらと天気の変化とを関係付けて追求する中で、予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現することを通して、天気の変化の仕方について理解すること。

・問題解決の見通しをもって、天気の変化の仕方について追求し、予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現しようとするとともに、台風による天気の変化の仕方について理解したことを日常生活に生かそうとする態度を養う。

【具体的な評価規準例】

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
台風と天気	・台風の進路は、天気の変化と関係があることを理解している。 ・台風の進路は、映像などの気象情報を用いて予想できることを理解している。 ・台風と降雨との関係及びそれに伴う自然災害について理解している。 ・数日間の雲の量や動きと気象衛星などから得た雲の量や動きの情報とを関係付けて、台風の進路を調べることができる。	・数日間の雲の量や動きと気象衛星などから得た雲の量や動きの情報とを関係付けて、台風の進路を調べる活動を通して、予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現することができる。	・問題解決の見通しをもって、台風の進路と天気の変化について追求し、予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現するなどして問題解決しようとしている。 ・台風に伴う自然災害について理解したことを日常生活に生かそうとしている。

4. 花から実へ

★実施時期：9月上旬～10月上旬

★指導時間数：9時間

【学習指導要領】

(1)植物の発芽、成長、結実

植物の育ち方について、発芽、成長及び結実の様子に着目して、それらに関わる条件を制御しながら調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する技能を身に付けること。

(ア)植物は、種子の中の養分を基にして発芽すること。

(イ)植物の発芽には、水、空気及び温度が関係していること。

(ウ)植物の成長には、日光や肥料などが関係していること。

(エ)花にはおしべやめしべなどがあり、花粉がめしべの先に付くとめしべのもとが実になり、実の中に種子ができること。

イ 植物の育ち方について追究する中で、植物の発芽、成長及び結実とそれらに関わる条件についての予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現すること。

【単元の目標】

・植物の発芽、成長及び結実の様子に着目して、それらに関わる条件を制御しながら追求する中で、予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現することを通して、植物の育ち方について理解すること。

・問題解決の見通しをもって、植物の発芽、成長及び結実の様子について追求し、予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現しようとするとともに、植物の発芽、成長及び結実について理解したことを日常生活に生かそうとする態度や、生命を尊重しようとする態度を養う。

【具体的な評価規準例】

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
結 実	・花にはおしべやめしべなどがあり、花粉がめしべの先に付くとめしべのもとが実になり、実の中に種子ができることを理解している。 ・花のつくりを調べたり、顕微鏡で花粉を観察したり、受粉するかしないかの条件を制御しながら実のでき方を調べたりすることができる。	・花のつくりを調べたり、顕微鏡で花粉を観察したり、受粉するかしないかの条件を制御しながら実のでき方を調べたりする活動を通して、予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現するなどして問題解決している。	・問題解決の見通しをもって、植物の結実の様子について追求し、予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現するなどして問題解決しようとしている。 ・植物の結実について理解したことを、日常生活などに生かそうとしている。 ・植物の結実の様子について調べる活動を通して、生命を尊重しようとしている。

5. 雲と天気の変化

★実施時期:10月上旬～10月下旬

★指導時間数:8時間

【学習指導要領】

(4)天気の変化

天気の変化の仕方について、雲の様子を観測したり、映像などの気象情報を活用したりする中で、雲の量や動きに着目して、それらと天気の変化とを関係付けて調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する技能を身に付けること。

(ア)天気の変化は、雲の量や動きと関係があること。

(イ)天気の変化は、映像などの気象情報を用いて予想できること。

イ 天気の変化の仕方について追究する中で、天気の変化の仕方と雲の量や動きとの関係についての予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現すること。

【単元の目標】

・雲の量や動きに着目して、それらと天気の変化とを関係付けて追求する中で、予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現することを通して、天気の変化の仕方について理解すること。

・問題解決の見通しをもって、天気の変化の仕方について追求し、予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現しようとするとともに、天気の変化の仕方について理解したことを日常生活に生かそうとする態度を養う。

【具体的な評価規準例】

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
雲と天気	・天気の変化は、雲の量や動きと関係があることを理解している。 ・雲の量や動きと天気の変化とを関係付けて、1日の雲の量や動きを調べることができる。	・雲の量や動きと天気の変化とを関係付けて、1日の雲の量や動きを調べる活動を通して、予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現するなどして問題解決している。	・問題解決の見通しをもって、天気の変化の仕方について追求し、予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現するなどして問題解決しようとしている。 ・天気の変化の仕方について理解したことを日常生活に生かそうとしている。

天気 の 予 想	・天気の変化は、映像などの気象情報を用いて予想できることを理解している。 ・数日間の雲の量や動きと気象衛星などから得た雲の量や動きの情報とを関係付けて、天気の変化の仕方を調べることができる。	・数日間の雲の量や動きと気象衛星などから得た雲の量や動きの情報とを関係付けて、天気の変化の仕方を調べる活動を通して、予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現することができる。	
-----------------------------	---	---	--

6. 流れる水のはたらき

★実施時期:10月下旬～11月下旬

★指導時間数:12時間

【学習指導要領】

(3)流れる水の働きと土地の変化

流れる水の働きと土地の変化について、水の速さや量に着目して、それらの条件を制御しながら調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する技能を身に付けること。

(ア)流れる水には、土地を侵食したり、石や土などを運搬したり堆積させたりする働きがあること。

(イ)川の上流と下流によって、川原の石の大きさや形に違いがあること。

(ウ)雨の降り方によって、流れる水の速さや量は変わり、増水により

土地の様子が大きく変化する場合があること。

イ 流れる水の働きについて追究する中で、流れる水の働きと土地の変化との関係についての予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現すること。

【単元の目標】

・水の速さや量に着目して、それらの条件を制御しながら追求する中で、予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現することを通して、流れる水の働きと土地の変化について理解すること。

・問題解決の見通しをもって、流れる水の働きと土地の変化について追求し、予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現しようとするとともに、流れる水の働きと土地の変化について理解したことを日常生活に生かそうとする態度を養う。

【具体的な評価規準例】

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
浸食、運搬、堆積	・流れる水には、土地を侵食したり、石や土などを運搬したり堆積させたりする働きがあることを理解している。 ・川を流れる水の速さや量と土地の変化とを関係付けて、流れる水の働きを調べることができる。	・川を流れる水の速さや量と土地の変化とを関係付けて、流れる水の働きを調べる活動を通して、予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現するなどして問題解決している。	・問題解決の見通しをもって、流れる水の働きと土地の変化について追求し、予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現するなどして問題解決しようとしている。 ・流れる水の働きと土地の変化について理解したことを、日常生活に生かそうとしている。

川の上流と下流の石	・川の上流と下流によって、川原の石の大きさや形に違いがあることを理解している。 ・川を流れる水の速さや量と川原の石の大きさや形とを関係付けて、川の様子の違いを調べることができる。	・川を流れる水の速さや量と川原の石の大きさや形とを関係付けて、川の様子の違いを調べる活動を通して、予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現するなどして問題解決している。
増水による土地の変化	・雨の降り方によって、流れる水の速さや量は変わり、増水により土地の様子が大きく変化する可能性があることを理解している。 ・水の速さや量の条件を制御しながら、増水による土地の変化の様子を調べることができる。	・水の速さや量の条件を制御しながら、増水による土地の変化の様子を調べる活動を通して、予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現するなどして問題解決している。

7. ふりこのきまり

★実施時期：11月下旬～12月下旬

★指導時間数：7時間

【学習指導要領】

(2)振り子の運動

振り子の運動の規則性について、振り子が1往復する時間に着目して、おもりの重さや振り子の長さなどの条件を制御しながら調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する技能を身に付けること。

(ア)振り子が1往復する時間は、おもりの重さなどによっては変わらないが、振り子の長さによって変わることを。

イ 振り子の運動の規則性について追究する中で、振り子が1往復する時間に関する条件についての予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現すること。

【単元の目標】

・振り子が1往復する時間に着目して、おもりの重さなどの条件を制御しながら1往復する時間の違いを追求する中で、予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現することを通して、振り子の運動の規則性について理解すること。

・問題解決の見通しをもって、おもりの重さなどの条件を制御しながら追求し、予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現しようとするとともに、振り子の運動の規則性について理解したことを日常生活などに生かそうとする態度を養う。

【具体的な評価規準例】

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	・振り子が1往復する時間は、おもりの重さなどによっては変わらないが、振り子の長さによって変わることを理解している。 ・おもりの重さ、振り子の長さ、振れ幅などの条件を制御しながら、振り子が1往復する時間を変化させる条件を調べることができる。	・おもりの重さなどの条件を制御しながら、振り子が1往復する時間を変化させる条件を調べる活動を通して、予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現するなどして問題解決している。	・問題解決の見通しをもって、おもりの重さなどの条件を制御しながら追求し、予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現するなどして問題解決しようとしている。 ・振り子の運動の規則性について理解したことを、日常生活などに生かそうとしている。

8. もののとけ方

★実施時期：1月上旬～2月中旬

★指導時間数：16時間

【学習指導要領】

(1)物の溶け方

物の溶け方について、溶ける量や様子に着目して、水の温度や量などの条件を制御しながら調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する技能を身に付けること。

(ア)物が水に溶けても、水と物とを合わせた重さは変わらないこと。

(イ)物が水に溶ける量には、限度があること。

(ウ)物が水に溶ける量は水の温度や量、溶ける物によって違うこと。

また、この性質を利用して、溶けている物を取り出すことができること。

イ 物の溶け方について追究する中で、物の溶け方の規則性についての予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現すること。

【単元の目標】

・物が水に溶ける量や様子に着目して、一定の量の水に物が溶ける量や様子について追求する中で、予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現することを通して、物の溶け方の規則性について理解すること。

・問題解決の見通しをもって、水の温度や量などの条件を制御しながら追求し、予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現しようとするとともに、物の溶け方について理解したことを日常生活などに生かそうとする態度を養う。

【具体的な評価規準例】

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
溶ける前と後の重さ	・物が水に溶けても、水と物とを合わせた重さは変わらないことを理解している。 ・物が水に溶ける前の重さと、溶けた後の重さの違いを比較しながら調べることができる。	・物が水に溶ける前の重さと、溶けた後の重さの違いを調べる活動を通して、予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現するなどして問題解決している。	・問題解決の見通しをもって、水の温度や量などの条件を制御しながら追求し、予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現するなどして問題解決しようとしている。 ・物の溶け方について理解したことを日常生活などに生かそうとしている。

溶ける量の限度	・物が水に溶ける量には限度があることを理解している。 ・水に物を溶かしたときの、物の溶ける量について、条件を制御しながら調べることができる。	・水に物を溶かしたときの、物の溶ける量を調べる活動を通して、予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現するなどして問題解決している。
水の温度や量による溶ける量の変化	・物が水に溶ける量は水の温度や量、溶けている物によって違うことや、溶けている物を取り出すことができることを理解している。 ・水の温度や量を変えて物を溶かしたときの物の溶ける量について、条件を制御しながら調べることができる。	・水の温度や量を変えて物を溶かしたときの物の溶ける量を調べる活動を通して、予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現するなどして問題解決している。

9. 電流と電磁石

★実施時期：2月中旬～3月中旬

★指導時間数：13時間

【学習指導要領】

(3) 電流がつくる磁力

電流がつくる磁力について、電流の大きさや向き、コイルの巻数などに着目して、それらの条件を制御しながら調べる活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のことを理解するとともに、観察、実験などに関する技能を身に付けること。

(ア) 電流の流れているコイルは、鉄心を磁化する働きがあり、電流の向きが変わると、電磁石の極も変わることを理解すること。

(イ) 電磁石の強さは、電流の大きさや導線の巻数によって変わることを理解すること。

イ 電流がつくる磁力について追究する中で、電流がつくる磁力の強さに関する条件についての予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現すること。

【単元の目標】

・電流の大きさや向き、コイルの巻数などに着目して、それらの条件を制御しながら追求する中で、予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現することを通して、電磁石の性質について理解すること。

・問題解決の見通しをもって、コイルの巻数などの条件を制御しながら追求し、予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現しようとするとともに、電磁石の性質について理解したことを日常生活などに生かそうとする態度を養う。

【具体的な評価規準例】

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
電 磁 石 の 極	・電流の流れているコイルは、鉄心を磁化する働きがあり、電流の向きが変わると、電磁石の極も変わることを理解している。 ・電磁石と磁石とを比較しながら、電磁石の性質を調べることができる。	・電磁石と磁石とを比較しながら、電磁石の性質を調べる活動を通して、予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現するなどして問題解決している。	・問題解決の見通しをもって、コイルの巻数などの条件を制御しながら追求し、予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現するなどして問題解決しようとしている。 ・電磁石の性質について理解したことを、日常生活などに生かそうとしている。

電 磁 石 の 強 さ	・電磁石の強さは、電流の大きさや導線の巻数によって変わることを理解している。 ・電流の大きさや導線の長さ、コイルの巻数などの条件を制御しながら、電磁石の強さを変化させる要因を調べることができる。	・電流の大きさなどの条件を制御しながら、電磁石の強さを変化させる要因を調べる活動を通して、予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現するなどして問題解決している。
----------------------------	--	---